

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報

おおづ

7

JUL2019



巻頭特集

「さくらねこ」を知っていますか

今月のみどころ

令和元年採用試験案内

Public relations
OZU TOWN

広報 おおづ 2019 7

発行・編集 ■大津市・総務課
〒869-1292 熊本市東区大津大字大津 1233 番地
TEL.096 (293) 3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

2100 印刷 ■ホーテ印刷株式会社
※広報おおづは環境に配慮して再生紙と植物油インクを使っています。

UD FONT
易やしく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

clozu-up
Ozu-jin
クローズアップ 大津人



話を聞いた高濱一昭さん。普段は農家として
さまざまな種類の作物を育てている



「鳥獣を被害としてだけでなく 大切な命として考えてほしい」

今回はカラス駆除のため集まった皆さん

全国的に深刻化しているイノシシなどの鳥獣による農作物への被害。町内でも深刻化する問題に取り組み大津町有害鳥獣捕獲隊の皆さんをクローズアップする。代表して高濱一昭さんに話を聞いた。

大津町猟友会は2つの支部があり、24人が所属している。町で定めている期間に活動を行っている。駆除する対象はイノシシ、シカ、カラスなどで猟銃や罠を使って狩を行っている。特にイノシシは勢子と呼ばれる猟犬を扱う人が必要で、いない場合はたとえ被害があってもイノシシはできない。猟は長時間山の中を歩いて獲物を追いつめる必要があることから最低7〜8人必要だという。近年は高齢化が進み60〜70代がほとんどで体力的にも満足な猟ができないこともあり、必要な場合は熊本市の猟友会から人手を借りることも少なくないという。

鳥獣による農作物対策として、電気柵や呼ばれると電流の流れる柵や、鳥獣が嫌いな臭いを出すという乾燥したヒトデを粉末状にしたものを散布することも試しているという。

「動物たちも学習していくので、なにか対策してもすぐに慣れてしまふんですよ。特に今のイノシシとかは畑の作物がおいしいことを知っているから人里に近い耕作放棄地に住み着いているからですね。人と鳥獣が近すぎると人に危害が加えられる可能性が増えるので気苦労が絶えません」と高濱さんはため息混じりに語る。

「鳥獣の問題が多いのはそれだけ自然が豊かなことの裏返し」と語る高濱さん。「鳥獣を被害としてだけではなく大切な命として考えてもらいたい。ただ、野生動物が増え続けているのも現状。バランスを取るために自然の恵みとして大切にいただくことも必要ではないかと思う」。猟で得た野生動物の食肉である「ジビエ」が大津町でも認知度が高まれば、「担い手不足の問題が解決し、自然との共生が実現するのではないかな。ジビエ料理の専門店などできたらおもしろいな」と未来を語る高濱さんのアイデアは尽きない。

からいもくん便り

大津町総合情報メール



QRコード

登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jp に空メールを送信してください(スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。

携帯電話やパソコンのメール機能を活用して、生活に役立つさまざまな情報をお知らせするシステムです。



ついでの声

▼今年は例年に比べて梅雨入りが遅く暑い日が続いています。水害などが起きないのは良いことですが、水資源の不足も重大な問題です。天候は私たちにどうすることもできないので、あらかじめ備えておくことが大切ですね。(睡)

▼陣内幼稚園の恒例行事「泥んこ遊び」。裸足で田んぼに入るのは私自身初めての経験でした。泥だらけになりながら、かけっこやジャンプをして元気がいっぱい遊ぶ園児たちの中、